

平成29年教育委員会第1回臨時会会議録

開会日時 平成29年 1月26日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時55分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤 雄一
同職務代理者 日高 芳一
委 員 齋藤 初夫
委 員 塚本 亨
委 員 天宮 久嘉
委 員 大里 豊子

議場出席委員

・教育次長	坂井 保義	・学校教育担当部長	平沢 安正
・庶務課長	杉立 敏也	・学校施設課長	青木 克史
・学校施設整備担当課長	長南 幸紀	・学務課長	鈴木 雄祐
・指導室長	中川 久亨	・統括指導主事	加藤 憲司
・統括指導主事	塩尻 浩	・地域教育課長	山崎 淳
・生涯学習課長	小曾根 豊	・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄
・中央図書館長	鈴木 誠		

書 記

・企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤 雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤 雄一 委員 日高 芳一 委員 齋藤 初夫
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

開会時刻 10時00分

○**教育長** おはようございます。出席委員が定足数に達しておりますので、平成29年教育委員会第1回臨時会を開催したいと思います。本日の議事録の署名人は私と日高委員、そして齋藤委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは議事に入ります。本日は議案等はありません。報告事項等3件、そしてその他3件でございます。

報告事項等1「平成28年度葛飾スタンダードに関する意識調査（第2回）の実施結果について」をお願いします。

指導室長。

○**指導室長** それでは「平成28年度葛飾スタンダードに関する意識調査（第2回）の実施結果について」ご報告させていただきます。「葛飾教師の授業スタンダード」及び「かつしかっ子学習スタイル」の各項目の定着状況について、9月に実施した第1回と同様のアンケート調査を実施し、比較を行いました。資料の（1）対象、（2）実施時期につきましては記載のとおりでございます。

「2 結果」についてご説明させていただきます。（1）「葛飾教師の授業スタンダード」調査結果についてでございます。1枚おめくりいただいて、3ページの「葛飾教師の授業スタンダード」意識調査のグラフをご覧ください。各グラフの1番右端、三つの棒グラフは右から平成27年度、平成28年度9月、そして今回平成28年12月に実施しました平均値の値でございます。小中学校共に全ての項目において、平成27年度から徐々に数値が高まり、取組みの定着が進んでいることがわかりました。しかしながら、質問2「主体的な活動を取り入れていますか」、質問3「まとめをしていますか」については、他の2項目よりも数値が低く出ております。各校間、教科間での取組みの差についても9月と同様依然として大きいことが読み取れます。

（2）「かつしかっ子学習スタイル」調査結果についてでございます。さらに資料をおめくりいただいて「かつしかっ子学習スタイル」意識調査の表をご覧ください。色がついているのは9月からの肯定的回答が向上した項目でございます。参考に平成27年度の数値も記載いたしました。

質問の1から3、「授業に向かう姿勢」に関する項目につきましては、中学校2年生を除く全ての学年で肯定的回答の割合が向上いたしました。特に小学校では質問1「学習用具の準備」の数値が9月に比べて3.1から7.9ポイント向上しており、取組みの定着が進みました。また「授業中の話す・話し合う」の質問について、全ての学年で数値が向上いたしました。

中学校3年では「学習してきたことを活用して、課題を見つけ、話し合い学び合いをしていますか」の数値が9月に比べて8.3ポイント、昨年度と比べて15.1ポイント向上いたしました。

このことから9月の調査実施後に示した改善の方向性である「調べたり、考えたりしたこと

を、話し合い学び合う活動」に重点を置いた授業改善がやや進んできていると考えております。

一方、「家庭学習、テストの見直し」に関する質問につきましては、小学校1年から小学校4年は肯定的回答の割合が約9割と高いものの、9月と比べるとわずかながら低下傾向にございます。小学校5年から中学校3年は、肯定的回答の割合が約5割から7割であり、定着に課題が見られます。

中学校3年だけは昨年度及び9月と比べて大幅に数値が向上いたしました。中学校2年は質問10「家庭学習で毎日の宿題をやりきり、予習復習を計画的に行っていますか」の数値が9月に比べて5.7ポイント、昨年度と比べて0.6ポイント低下しておりました。

そこで、(3)改善の方向性でございます。2ページにお戻りいただきましてご覧ください。まとめの指導の充実による「分かるまで、できるまで学ぶ意欲の向上」といたしました。

教員質問3「まとめをしていますか」の数値が低いということは、児童・生徒がみずからの学習状況を十分に振り返ることができていないことにつながっていると考えられます。まとめの指導を充実させることにより、児童・生徒は自分自身の学習状況を具体的に理解することができ、何がわからないのか、何ができるようになればよいのかを自覚し、行動に移すことができるようになります。それにより「分かるまで、できるまで取り組もう」とする意欲が高まり、今回課題として挙げた「家庭学習・テストの見直し」に関する意識の向上も期待できると考えております。

以上のことから、「葛飾教師の授業スタンダード」に基づき、「授業の終わりに学んだことを振り返らせ、板書等により整理する」に重点を置いた授業改善をより推進していくことを改善の方向性として提示し、各校に指導してまいりたいと考えております。

説明は以上です。よろしく願いいたします。

○教育長 それではただいまの件について、ご質問等ありましたら、お願いします。

塚本委員。

○塚本委員 指導室長からのご説明ありがとうございました。私が感じた点と若干の課題があるかどうかという読み取りをさせていただきました。まず、結果の分析でございますけれども、当然、「教師の授業スタンダード」の調査結果、あるいは「学習スタイル」。その整合性が出てこないといけない項目ですね。教師の授業力がアップして、学力がアップするということが一番理想の像なのですけれども、とりわけ課題となるのが、今、ご指摘のあった中2の問題が一つの課題で、何より気になったのは3ページでございますが、(1)「ねらいを伝えていますか」とある設問項目の中で、学校間格差がやはりどうしても目立って、このグラフ上に現れてきています。総体的には一番右の3本のグラフ、棒グラフに示されたように増加傾向にありますけれども、設問項目によっては学校間格差とその上限の低さという部分がございます。

一方、うれしく思ったのは、小学校1年での授業の準備、授業に入るための子供達の動機づ

けという部分で、やるんだということを低学年から定着させていただくことは良いことであると思いました。

5ページ以降でも、平成27年、28年度それぞれ9月、12月の差がございますけれども、平成27年度と比べますとまた若干の乖離現象。総体的には全部色の網掛けがして、ほぼ低位の部分もそんなに極端な乖離が出てございませんので、総体的にはよろしいかなという感想を持ちました。

もう一点はやはり7ページの中学校2年の設問項目の9と10ですか。やはりここが、大きな課題であると思います。今、指導室長が最後におっしゃられましたように、2ページの後段でございますけれども、「以上のことから」の三つのくくり、やはり教員が板書を充分利用しながら、そういう部分はこれからの大きな課題であると私も痛感いたしました。以上です。

○教育長 そのほか、いかがでしょうか。

日高委員。

○日高委員 やはり、学校の温度差が目立ちます。これは学校にはお配りになりますか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 配ります。

○日高委員 これで気づかなかつたら、本当に最悪だと思います。

例えば、この3ページの2番目を見てください。「児童の主體的な活動を取り入れていますか」ですが、これも低いところは目立ちます。

その下の「まとめをしていますか」。先ほど指摘もありましたが、2校がかなり低いです。これは大変な問題だと思います。同様に中学校の「まとめをしていますか」についても、3校がやはり低い。

学校の意識が、どうやったら変わっていくのかと考えます。私は今回の結果を見て、非常にいい傾向にあると見ているのです。つまり、授業スタンダードと学習スタイルの捉え方をいろいろな教師が一所懸命考えているのではないかと。にもかかわらず、今の状況がある。

こういう意識の希薄なところにはついては、具体的にというよりも、どのようにお考えですか、改善するためにどのようにされますかと、やはり長たる者には責任を感じてもらい、ご指導いただかないとならないと思います。「見ておわかりになりましたか」ではわからないのです。

葛飾区がこの調査を始めたということは、画期的な意味があると思っています。そして各学校でも研究発表しておりますが、これがまさに生きているでしょう。研究をしている学校は生きている。では、研究をやっていない学校はというと、恐らくここに当てはまると思います。

意識の問題ですから、今、葛飾の全教員が、この教育委員会が示している学習スタイルであったり、授業スタンダードをまず一つの目当てとしてやっていただいていますから、この結果を全校に、ぜひ周知いただくようお願いをしたいと思います。以上です。

○教育長 よろしいですか。

では、指導室長、今のことについてお願いします。

○指導室長 委員ご指摘のとおり、これをきちんと示した上で、数値の低いところ、その部分については、校長のほうに直接他校に比べてここまで低いですということをきちんとデータに向き合わせた上、その改善策についてはしっかり示してもらうように、こちらのほうから指導したいと考えております。

○日高委員 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○教育長 では齋藤委員。

○齋藤委員 何点かお願いします。

この「授業スタンダード」は、5、6年前に、ほかの自治体で実施していたのを聞いていて、「これをやったらいいな」と思っていたのですが、葛飾が実施していて、新宿中に行ったときにも、「ああ取り組んでくれているんだ」と、本当にうれしく思いました。

まず最初に聞きたいのは、東京全体で取り組んでいるのか、葛飾区が先駆的にやっているのか、他区の状況はどうか、または国全体でやっているのか。現在、どういう状況の中で、葛飾区が取り組んでいるのか、教えてください。

○教育長 指導室長。

○指導室長 特別区の指導室課長会等で情報交換したときに、本区のように「ねらい・まとめ」をきちんと板書するとか、そういうようなことを細かく具体的な項目で示しているところというのは私の耳には入ってございません。

都とか他区の状況では、ある程度のスタンダードというものをもちろん示しているところはあるのですが、「ねらい・まとめ」を必ず板書するというような、この部分の項目についてはありません。

本年度に着任された管理職、校長先生、副校長先生には、年に2回以上は必ず1単位時間の授業観察をするようになっているのですが、本区のように、この「教師の授業スタンダード」というのがあるので、「これを目当てに授業観察を行います」ということを事前に、教員に周知した上でやっている。つまりは、やるべき観点というのがこれほど明確になっているのは他ではなかったもので、非常にやりやすいですというような話は聞いたところでございます。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 新宿中に行ったときに、やはりこれができているのは大前提であるという話をしましたよね。やはり授業の態度というか、挨拶とか基本的なこの日常習慣的なもの、先ほどの授業の始まりの話がありましたけれども、あれがないとできないのだと。アクティブ・ラーニングもできないのだということを言っていました。

ですから、結果が出てないところの学校については、同じようにやっていけば数値が上がる

はずだと思いますので、その辺のところを、研究校の成果を周知して、「こうやったらできるんじゃないか」ということを具体的に示してあげ、方向性を与えるほうが、結果は良くなるのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか

○教育長 指導室長。

○指導室長 委員ご指摘のとおり、先日の新宿中学校の研究発表のときにも、学習規律が大前提というようなことを、研究主任等それぞれの教員が話しておりました。まさしくそのとおりで、中学校の学習規律、これは授業の根底にあると考えています。

区内 24 校、研究発表校だけでなく、生活態度、それから学習の落ちつきというのは随分と良くなってきていると思います。

ですので、今後はさらにデータの数値の低かった学校には一歩前進、具体的に何やりますかということを確認した上で、足りない部分についてはこちらのほうから指導・助言に努めてまいりたいと考えております。

○教育長 そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項等 1 を終わります。

続きまして、報告事項等 2、「平成 28 年度第三者評価の実施結果について」お願いします。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成 28 年度第三者評価の実施結果について」ご報告させていただきます。第三者評価につきましては、学校に派遣された評価委員が学校の自己評価に基づき、授業や課外授業等の観察、管理職及び教員、保護者、地域住民へのヒアリングなど、学校を多角的な視点で分析、評価を行うことを目的としております。実施校における期待される効果としましては三つございます。

1 点目、全ての教員の授業や課外活動等における児童・生徒の状況を、複数の評価委員が観察することにより、教員の授業力や児童・生徒の実態などを客観的に把握することができること。

2 点目に評価委員が管理職及び教員、保護者、地域住民へのヒアリングを行うことにより、本校の教育課程の実施状況や課題の把握を客観的に行うことができること。

そして、3 点目、以上 2 点の結果を次年度への教育課程編成につなげることができることでございます。

今年度の実施につきましては、昨年度教育委員会にていただいたご意見をもとに 2 点改善を図りました。

1 点目は評価委員に外部有識者を含めたことでございます。そのことにより、幅広い視点から評価をいただくことができました。

そして 2 点目に実施校をふやしたことでございます。昨年度までは 5 校程度の実施でしたが、

今年度は8校実施いたしました。今後は10校程度を計画的に実施してまいりたいと考えております。

今年度の第三者評価の評価結果について、簡単ではございますが、ご報告させていただきます。今年度は本田小学校、葛飾小学校、水元小学校、東綾瀬小学校、飯塚小学校、細田小学校、金町中学校、綾瀬中学校の8校を実施いたしました。

評価につきましては2月上旬に各学校へ報告する予定でございます。全体を通して授業等の状況についてですが、どの学校においても教員は熱心に授業に臨んでおり「葛飾教師の授業スタンダード」を意識しながら目当て、展開、まとめの流れを大切にした授業が展開されていることを評価しております。

しかし、中には教師主導型の授業も見られたこともあり、児童・生徒が主体的に活動する授業の展開を工夫するなど改善に向けた取組みを課題として挙げております。次期学生指導要領にも記載されるアクティブ・ラーニングに向けた取組みを期待しております。

「かつしかっ子学習スタイル」を徹底している学校は、低学年から学び方の基本がしっかり身につけており、落ちついた態度で互いに認め合いながら学んでいることを評価しております。

まず本田小学校につきましては、教育課程実施状況の中で、管理職が先頭に立ち、「人権教育の推進」や「学力向上」を柱として、「チーム学校」として組織的に取り組み始めていることを評価しております。また、保護者、地域との連携の状況の中で、地域の方のヒアリングに「児童の表情が生き生きとし学校の雰囲気が良くなってきている」とあることに対し、今後も継続した取組みを期待しております。

次に葛飾小学校につきましては、教育環境の状況の中で、休み時間に多くの教員が校庭に出て児童と遊んでおり、さまざまな機会を捉えて児童理解に努めていることを評価しております。

また、学校の組織運営の状況の中で、職員会議の持ち方を工夫しており、見通しを持った教育活動の実施について評価しております。

続きまして水元小学校ですけれども、教育課程実施状況調査の中で毎週提出される週案簿を管理職だけでなく、学年主任、主幹教諭による点検も実施されており、週案簿を活用した人材育成について、評価しております。また、学校の組織運営の状況の中で、生活指導主任や研究主任がリーダーシップを発揮し、組織的に教育活動を実施していることについても、評価しております。

続きまして東綾瀬小学校です。教育課程実施状況及び学校の組織運営の状況の中で、平成28年度、29年度に東京都人権尊重教育推進校として、全教職員で意欲的に研究を推進していることを評価しており、人権教育が全教育活動で展開され、学校の財産として残していくことを期待しております。また、保護者、地域との連携の状況の中で、40年を超える盲学校との交流や地域イベントに参加している金管バンドなど特色を生かした学校経営について評価しております。

す。

飯塚小学校です。教育課程実施状況の中で、児童の自己肯定感を育むことを学校経営の中心に据え、全教職員で取り組んでいることを評価してあります。また生徒指導及び児童・生徒の状況の中で課題となっていた廊下歩行に対し、メッセージ・ピラーを作成したことにより、改善が見られたことについて、評価しております。

続いて細田小学校です。教育課程実施状況の中で、「すべての取組は児童のため」という校長の経営理念のもと、教職員が一丸となって努力していることを評価しております。また若手教員育成のためにも研究指定校を受けたり、お互いに学び合う雰囲気づくりをしたりすることを管理職に期待しております。

続きまして、金町中学校です。教育課程実施状況の中で「金町中の良いところを見つけ、伸ばしていこう」を合い言葉にし、生徒も教員も努力していることを評価しております。また、望ましい人間関係を作る手がかりとして実施している級友に頼るだけでなく、プロの教員として、生徒理解に努めることを期待しております。地域にある東京理科大学との連携も特色の一つであり、今後も推進することを期待しております。

最後に綾瀬中学校につきましては教育課程実施状況の中で小規模校の良さを生かし、生徒、教職員とも良好な人間関係が築かれている様子を評価しております。また、学校の組織運営の状況の中で研究の年間計画を作成したり、外部からの講師を招聘した検証授業を行ったりするなど、校内研究の充実について期待しております。

以上、抜粋ではございますが、各校の評価のご報告を終わります。

続きまして資料2ページ、「3 今後の予定について」でございます。まず成果と課題についてです。学校評価、学校関係者評価に加え、今回の第三者評価を通じて2日間授業を中心とした教育活動の状況をPTA、保護者や地域の方からの意見聴取など専門的な見地からの評価を受けることで学校運営の改善による教育水準の向上に資することが期待されております。

また、今年度希望を募ったところ、第三者評価を希望する学校もあり、一定のニーズもあります。反面、課題としては9年間で実施した学校は35校で全体の約43%であり、全ての学校のニーズに応えきれないことがあります。

そこで次年度につきましても、指導室が事務局となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とする評価チームを2、3名程度で編成し、学校と設置者である教育委員会が実施者となり、第三者評価を行います。実施校につきましては、実施希望校を募るほか、昇任校長校などから教育委員会が指定し、原則1校につき2日程度で実施したいと考えております。

とりまとめた評価につきましては年度末に教育委員会で報告させていただきたいと考えております。以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長 それでは、ただいまの件について、ご質問等ありましたらお願いします。

齋藤委員。

○齋藤委員 学校の組織運営の状況のところに、分担が多いとか仕事が多いと書いてありました。

例えば防災教育とか年金の教育など、一つずつ大事なことなのですけれども、それが時代の流れの中で新しいことがどんどん打ち出されてきて、それは全部1人の教師が背負っていく形になっている。昔と違ってそういう状況が生まれているのではないかと思います。その上に収支会計をやったり事務をやったり分担があったりということになる。教師は非常に長い時間仕事をしているという話は昔からありましたが、それ以上に今はもっと大変なんじゃないかと常々感じてきています。子どもの教育をよくするためには、教師の資質を向上させるということがまず必要になるのですけれども、教師が資質を向上させる時間が本当にあるのかということを感じます。

ですから、教師が課題を解決し、きちんと消化できるような仕組みができると良いと。例えば一例にしか過ぎませんが、事務量を減らす仕組みとか、先生が資質向上に向かって頑張れるように何か工夫をする必要があります。授業のスタンダードを進めたり、研究校の取組みを進めるにしても、この点が大変だと思うんですよ。

ですから、教育委員会として、教師を取り巻く環境など、先生たちが教育に専心できるような支援を考えていくことが大事ではないかと感じています。いかがでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 はい。確かに以前と比べますと、今はさまざまな「〇〇教育」と言われるものが随分と多くなってきています。どれ一つ欠かすことのできない教育ではあるとは考えているのですけれども、全てを全部の学年でやるというのは正直言ってやはり難しい。時間的なことで非常に難しい状況です。

さまざまそういうところで、保護者、地域の要望というのも学校及び一教員に対する大きな期待となって出てきていますので、余計に子供ときちんと対峙し、その結果が出るように、一人一人の教員が努める。研修等に努めて指導力を上げ、授業に努めなければならないと考えています。

ですので、「〇〇教育」にしてみても、例えば、毎年全部の学年でやるのではなく、決められた何年生が毎年やるというふうに、一つ一つ本当に必要なものとそうでないもの、軽減をつけるといったら失礼になるかもしれないのですけれども、軽重をつけたりしながら、ある程度事務量を減らしたり、子供と向き合って遊ぶ時間をきちんと確保していくということは、これからも、今までも随分と学校と相談しているところではあるのですけれども、これからも一層努めなければならないと考えております。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 そういう取組みは、良いのですけれども、例えば学校に、その事務の負担を軽減してあげるような、例えばこの事例だと、研修をやる場所については事務量負担を軽減できるような何か加配を考えると、そういう仕組みも考えたほうがいいのではないかと思います。

今後検討していただければと思いますので、よろしくお願いします。

○教育長 指導室長。

○指導室長 先ほど、新宿中の研究についてなのですが、やはり、我々といいますか、教師が一番力をつける授業とか指導力の向上ということで、委員のご指摘ではなかなか新宿中は非常に大変だったのではないかとのご指摘もあったところなのです。やはり実際にやってみた学校の校長の意見を聞いてみると、研究をやったことによって学校がすごくまとまる、組織力が向上するというお話もいただきました。また、教科、領域ありますけれども、新宿中は先日全教科で実施していただきました。

今日実施する上平井小学校は算数で、明日は道上小学校が国語でというふうに、ある程度決められた教科でやる場所もございますけれども、その教科の専門性が非常に高まったということで、教師が自信を持っている。その授業をやるのが楽しくなったというような声というのが、実は12月までに行われた4校と新宿中のほうからはご報告をいただいております。

やはり教師には研究をする楽しさ、それを子供にしっかりと伝えると子供の学力向上が成果となって返ってくるという部分を、ぜひこの学校の教員にも感じていただきたい。今はそのように考えているところでございます。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 そうであるが故に、研究校に手を挙げさせるために、インセンティブというか、動機づけにそういうことも考えてあげて、手を挙げやすくしてあげるということを考えてもらえないかと、そういう意味で言ったのですが。

○指導室長 はい、わかりました。

○齋藤委員 新宿中の良かったというのも、この間聞きました。そういう意味で、ちょっと手を挙げやすくする状況をつくってあげることが他の学校に波及するのではないかと、しやすいのではないかとということですから、考えてみていただきたいと思います。

○教育長 指導室長。

○指導室長 ではそのような手が挙げやすい環境づくりに、一層努力したいと考えております。

○教育長 つまり事務量減らすとか、そういうことをやはり教育委員会としても、今、教師の多忙感ということを非常に言われているので、どうするか。対策を練っていききたいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

○教育長 塚本委員。

○塚本委員 やはり最近とみに教師の「多忙感」という部分が、メディアに先行していろいろ

報道されています。そして業種別にすると、教員の圧倒的な残業量であるというデータが示されており、社会的にある大手の企業の職場でのいろいろな大きな事例が最近ございますので、やはり今、一層力を入れてターゲットにされないよう対応していかなければと思います。

特に子どもたちを醸成していくための大事な教員の方々が、そういった社会的な事象で潰れてしまうのは、私は非常に残念でならないというのが一点。

それと、齋藤委員がおっしゃったのですが、今般8校が自主的に公募して、手が挙がってきた。それで、どこの学校とはあえて申しませんけれども、一生懸命意欲的におやりになり、この第三者評価を得ることによって、学内を再度、管理職の方がツールとして、教員育成にも活用できるいい結果が出たのかなと思います。

ただ、指導室のほうからあらかじめ指定をさせていただいたなかで、特に保護者、地域の連携の状況に関しては、各校共それぞれ良好な関係、特に下町のよさが見受けられるような関係が出ています。やはりメインになるのは教師力をアップするという部分で、管理職の方、やはり主任の方たちが若手の中間管理職の方も含めて、各若手の教員とのコミュニケーションを補助することの大切さが、幾つかの設問、それから評価の中に垣間見られました。

ですから、齋藤委員がおっしゃられましたように、これを一つの大きな媒体として、校長先生方が現場で力強く、若手教員の指導に資していただくことで何よりかと思います。

また、幾つかの学校もいろいろとおっしゃっていただくのは「こういうのを受けてみたいんだ」という雰囲気づくりで、ぜひ、指導室のほうからもお願いしたいと思います。お答えは結構です。

○教育長 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 第三者評価とは、当然書かれているのは教員の高評価、または厳しい評価ありますけれども、その評価を受けて、ちょうどモチベーションにも間違いなくつながりますし、今まで48%、35校やっております、この後は10校ずつやっていくということなので、ぜひいろいろな学校でやっていただけたらと思います。お願いいたします。

○教育長 はい、ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○教育長 日高委員。

○日高委員 まず3点、教えていただけるとありがたいと思います。

1点は、評価委員の方たち、大変すばらしい方たちがいらっしゃいます。こういう方たちが管理職やあるいは教員についてヒアリングする。これは実質的に十分に可能であろうと思います。ところが、保護者あるいはPTAの一員とか、会員ということになりましようけれども、あるいは地域住民のヒアリング。これを具体的にはどういう方法で聞き取っていらっしゃるのかなということ。

もう1点は、この評価結果を校長の裁量に任せていますとなっています。これは、学校によって「学校だより」で知らせたり、あるいはホームページ等に掲載したりという方法がありますね。そういう裁量の方法の現状はどうなのか、これを2点目に伺いたいと思います。

最後にもう1点。多くの学校がこういう機会を得ているということは大変うれしいと思います。今年度も8校について、この外部評価が出来たと。この実施校の決定について。次年度は何か評価を新しい学校、そして昇任校長などの学校にもぜひそういう機会を与えたいということとわかるのですが、私は、課題のある学校を対象にさせていただきたいと思うのです。

なぜかという、すごくいい結果が出ているからなのです。

今後、実施校についての選択はどのようにされているのか。あるいはこれまで、どういう根拠でこの学校を選んだのか、そこをわかる範囲で結構ですので、教えていただければと思います。

○教育長 指導室長。

○指導室長 それでは3点ご質問がございましたので、1点ずつお答えさせていただきます。

まず、評価委員が地域から聞き取りをやる時には、部屋を用意していただいて、管理職と学校関係者については全く入らない形。そのような形で実施をしているということで、報告をいただいております。

2番目の結果の公表なのですけれども、全部が全部、文書で出すというよりも、「学校だより」などの中で一部分、こちらが伝えたい結果の一部分を校長先生が「学校だより」の中に組み込んでご報告したりとか、そのようなことで昨年度は行っておりました。

そして3点目、学校の選び方についてなのですけれども、昇任校長の学校以外に、やはり前年度、課題があった学校についても、こちらのほうから声かけをさせていただき、今年度取り組んでいただいたところもございます。

特に組織的に、今年度の中には昨年度、学校組織としてちょっと大きな課題があった学校ということで、これは例えば、教職員間が余り人間関係がよくないのではないかというような、それというのはまさしく子どもにすぐ出てしまいますので、それを何とか改善を図るための一手立てとして、この第三者評価にぜひ入ってくださいということでこちらのほうから選んだような例もございます。

以上でございます。

○教育長 日高委員。

○日高委員 何故それを申し上げたかという根拠を私も少し申し上げたいと思うのです。

今、まさしく指導室長からご説明いただいたように、今年度実施した学校ですが、ここにその評価が出ているのですね。つまり、課題の多い学校であろうと思われる学校が、ここに数校あります。そして、地域の不安をあおったり、あるいは保護者の不安があったりという学校が

「校長がかわったことによって変わっている」と。変わってきたということが明確なのですよ。副校長と校長が一緒になって着任をして、新たな気持ちで、正に新進気鋭の気持ちで子どもたちと接し、地域と接し、教員を育てるといふ。

同時に教育委員会は人を配置しているのです。そして、そういう学校の姿が、実によく出ているということで、私はやはり課題校を意識された、そういうことが非常に大事だと思っているのです。

さらにこれも小学校です。実際に伺った学校ですが、本当に変わってきたのです。

副校長がかわっただけで学校が変わったという例が、この学校の中に出ています。教員の意識もまるで変わったのです。

もちろん教育委員会の人事配置で、人材を送り出して、副校長以外にも、人の配置を変えたということももちろんそうでありますけども、そこで校長がまた生き返ったのです。校長が、愛情を持って教員と接するようになった。このことによって、大変いい環境で今、先生方が取り組んでいるということは大変すばらしいと思うのです。

要するに、教育委員会が意識をされて学校を変えるために、第三者評価と合わせて、そうした人材を配置して、組織を変革することによって、学校が変わってきている。そういうあかしがこの中にたくさんあるということをお願いしたいというのが一つ。

最後に要望です。区は学校支援のために、先ほど申し上げたヒトもそうです。モノもカネも支援しているのです。葛飾区は本当に、各校に特別な予算まで配置していらっしゃる。この成果が見えない。

「伸び伸びプラン」を、予算をかけてやっている。そこには人を配置することもあるかもしれませんが。人を配置したことによってマイナスになることもあるのです。自分の対応は易くなるけれども、人を配置するところによって、例えば、実験の用具はほかの人がやってくれるけれども、自分の意図と合う、授業の意図と合う機材が明確にそこにそろっているかというところでもない。プロの教員と用具をただ準備するだけの作業というのは、幾ら呼吸を合わせていてもそんなにピシッと出来るものではありません。

ヒトをつけ、モノをつけ、カネをつけという、こういう状態をつくり出して、葛飾区が頑張っている事業についての評価がどこかもっと明確に出ているのではないかと。

そういうことを外部の方たちも、「本校のやっている事業でこういう授業もありますよ」とお話ししておけば、そういう視点から、この活用はいかに、そしてその成果はどうですかと。きっとそうした内容が出てくるのではないかと思います。効果が出ているかもしれませんが、私たちが気づかないのかもしれない。

これは質問ではありません。そういう方向に行くような、模索もいただくとありがたいと、要望だけを申し上げておきます。

○教育長 はい。そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

では、大里委員。

○大里委員 自分が教育委員になってから、行政がさまざまな取組みをしているということ、さらに感じておりますが、学校もこれだけの取組みをしていることが、またさらに感じられております。

先ほど齋藤委員がおっしゃった学校側の多忙もあると思いますので、その軽減を私も望みますが、日高委員もおっしゃったように、ただお金と人があればいいんだということでもないの、大変難しいことなのだと改めて感じました。

○教育長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項等2を終わります。

それでは引き続きまして、報告事項等3『『キャプテン翼CUPかつしか 2017』の実施結果について』をお願いします。

生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 それでは報告事項等3『『キャプテン翼CUPかつしか 2017』の実施結果について』ご報告いたします。

「実施日時」「会場」につきましては記載のとおり、平成29年1月7日土曜日、翌8日日曜日の2日間で、奥戸総合スポーツセンター陸上競技場で開催いたしました。教育委員の皆様を初め、多くの来賓の方々のご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。

「3 天候」につきましては、7日土曜日は晴れて、絶好のサッカー日和となりましたが、翌8日日曜日は朝からいまにも泣き出しそうな曇り空で、午後のエキジビジョンマッチ、上位順位決定戦、表彰式、閉会式はあいにくの雨となってしまいました。

続きまして「参加人数」でございますが、2日間で延べ7,700人ございまして、昨年度と比較いたしますと1,600人程度増加いたしました。

大会2日目の8日日曜日には陸上競技場での大会のほか、「キャプテン翼」ゆかりの地の物産展、高橋陽一先生トークショー、エキジビジョンマッチを開催し、多くの区民の方に楽しんでいただきました。参加人数の内訳につきましては記載のとおりでございます。

「5 大会参加チーム」につきましては、「キャプテン翼」ゆかりの地から北海道富良野市、秋田県鹿角市、長崎県平戸市の3チームが、葛飾区からは葛飾区選抜、南葛サッカースクール、FCB ESCOLA葛飾、これはバルサ・スクールのチームの名前です。この3チームが参加し、昨年優勝の大宮アルディージャジュニアを初めとする関東強豪の12チームと合わせ、全16チームで熱戦を繰り広げました。

試合結果につきましては優勝が横浜F・マリノスプライマリー追浜、準優勝が大宮アルディージャジュニア、3位がレジスタFCとなりました。葛飾区から参加した3チーム、「キャプテ

ン翼」ゆかりの地から参加した3チームの戦績は記載のとおりでございます。

最後になりますが、救護・迷子は、今回はございませんでした。

ご報告は以上です。よろしく申し上げます。

○**教育長** ありがとうございます。ではただいまの件について、ご質問等ありましたら願います。よろしいですか。

では大里委員。

○**大里委員** 寒い中、雨の中、選手の皆さん、スタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした。これだけたくさんのチームに来ていただき、ゆかりの地から物産展を出していただき、生涯スポーツ課の皆様、本当にご苦勞があったと思います。次回もぜひ期待をして、よろしく願います。

○**教育長** そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは報告事項等3を終わります。これで報告事項等を終了いたします。

そのほか何かご意見等ありましたら。よろしいですか。

それでは「その他」に入ります。それでは、一括して庶務課長願います。

庶務課長。

○**庶務課長** それでは「その他」3件、説明させていただきます。まず、1の「資料配付」でございます。今回は(1)の2月の行事予定表でございます。A4の両面印刷で配付をさせていただきます。

続きまして2の「出席依頼」は、今回はございません。

3の「次回以降教育委員会予定」でございますが、2月6日から3月31日までの予定を記載してございます。

説明は以上でございます。よろしく願います。

○**教育長** はい。いかがですか、よろしいですか。

それでは、特にご意見等もないようでございますので、これをもちまして平成29年第1回臨時会を閉会といたします。ありがとうございました。

閉会時刻10時55分